保証季報

－平成30年度－
第I四半期

四半期事業概況
月別事業概況
感謝状贈呈式開催
未来へ歩む京の企業
有限会社 松楽
金融機関紹介
京都北都信用金庫 弥栄支店
お茶の京都
京田辺市・八幡市
お知らせ
「みんなの力で暴力・違法銃器追放」
京都府民大会にて表彰されました
京都再生ネットワーク会議開催
日本財務管理学会に講師を派遣しました
新入職員紹介

八幡市 / 上津屋橋（流れ橋）

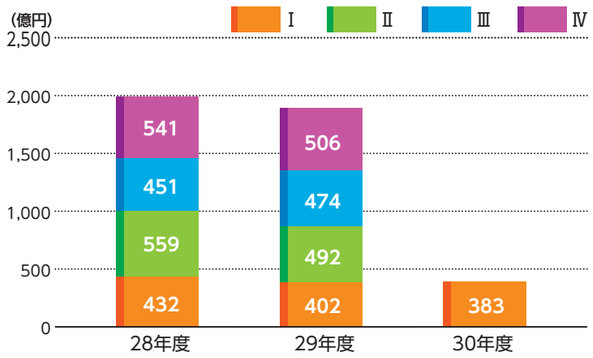
あなたの企業の一員に

京都信用保証協会
CREDIT GUARANTEE CORPORATION OF KYOTO

保証承諾

（単位:百万円、%）

	件　数	金　額	前年同期比	
			件　数	金　額
Ⅰ	2,242	38,285	102.0	95.0
Ⅱ				
Ⅲ				
Ⅳ				
年度累計	2,242	38,285	102.0	95.0

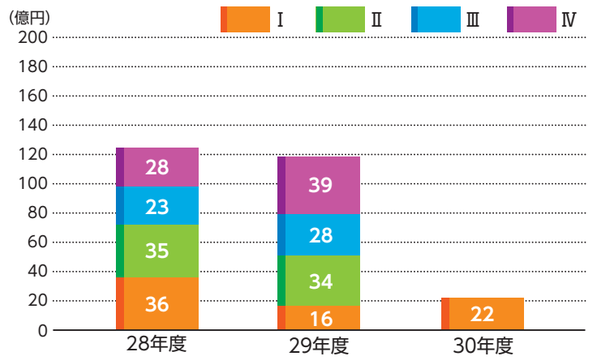


平成30年度第Ⅰ四半期の保証承諾は2,242件、382億85百万円となりました。前年度と比べ件数で102.0%、金額で95.0%となり、件数は前年度を上回り、金額は前年度を下回りました。

代位弁済

（単位:百万円、%）

	件　数	金　額	前年同期比	
			件　数	金　額
Ⅰ	113	2,176	80.1	131.8
Ⅱ				
Ⅲ				
Ⅳ				
年度累計	113	2,176	80.1	131.8

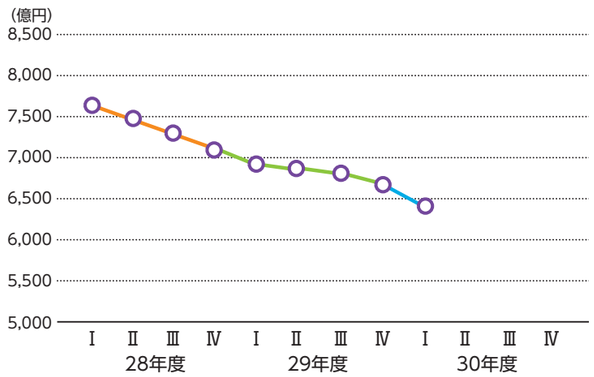


平成30年度第Ⅰ四半期の代位弁済は113件、21億76百万円となりました。前年度と比べ件数で80.1%、金額で131.8%となり、件数は前年度を下回り、金額は前年度を上回りました。

債務残高

（単位:百万円、%）

	件　数	金　額	前年同期比	
			件　数	金　額
Ⅰ	46,520	640,680	94.2	91.6
Ⅱ				
Ⅲ				
Ⅳ				



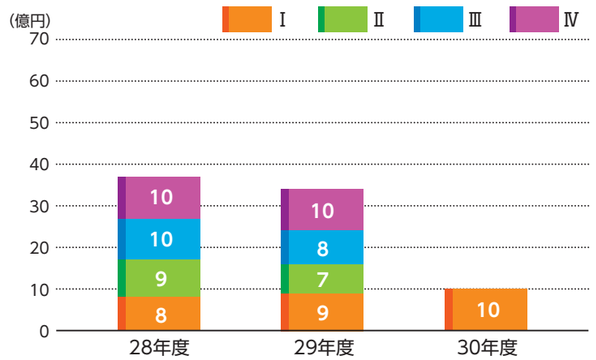
平成30年度第Ⅰ四半期の保証債務残高は46,520件、6,406億80百万円となりました。前年度と比べ件数で94.2%、金額で91.6%となり、件数、金額ともに前年度を下回りました。

求償権回収

（単位:百万円、%）

	件　数	金　額	前年同期比	
			件　数	金　額
Ⅰ	77	959	128.3	97.5
Ⅱ				
Ⅲ				
Ⅳ				
年度累計	77	959	128.3	97.5

※損害金回収を含む。件数は完済分。



平成30年度第Ⅰ四半期の求償権回収は77件、9億59百万円となりました。前年度と比べ件数で128.3%、金額で97.5%となり、件数は前年度を上回り、金額は前年度を下回りました。

事業概況 月別事業概況

保証承諾

(単位:百万円、%)

月別	件数	金額	前年度比 件数	前年度比 金額
4	636	11,662	103.4	105.1
5	762	12,672	107.0	98.3
6	844	13,951	96.9	85.5
7				
8				
9				
小計				
10				
11				
12				
1				
2				
3				
小計				
累計	2,242	38,285	102.0	95.0
事業計画	−	175,000	−	−
全国累計	149,103	1,837,132	100.9	101.2

※全国累計は速報値。

保証債務残高

(単位:百万円、%)

月別	件数	金額	前年度比 件数	前年度比 金額
4	47,030	653,394	94.3	91.8
5	46,781	646,084	94.3	91.7
6	46,520	640,680	94.2	91.6
7				
8				
9				
上期平残				
10				
11				
12				
1				
2				
3				
下期平残				
年度平残				
事業計画	−	600,000	−	−
全国累計	2,432,758	21,739,428	94.3	93.5

※全国累計は速報値。

代位弁済

(単位:百万円、%)

月別	件数	金額	前年度比 件数	前年度比 金額
4	45	614	68.2	68.3
5	34	528	89.5	104.4
6	34	1,034	91.9	419.3
7				
8				
9				
小計				
10				
11				
12				
1				
2				
3				
小計				
累計	113	2,176	80.1	131.8
事業計画	−	15,000	−	−
全国累計	8,816	82,177	101.3	97.6

※全国累計は速報値。

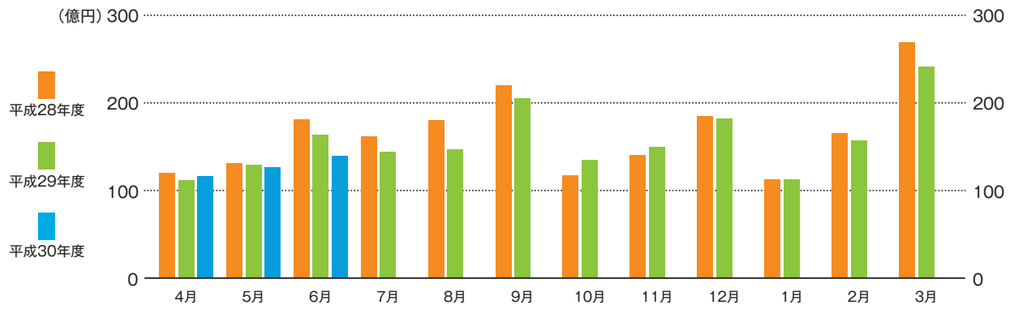
求償権回収

(単位:百万円、%)

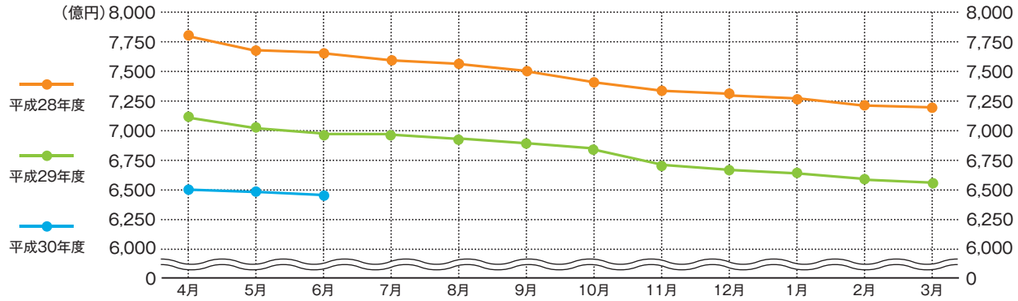
月別	件数	金額	前年度比 件数	前年度比 金額
4	23	292	104.5	97.5
5	23	280	82.1	73.0
6	31	387	310.0	128.7
7				
8				
9				
小計				
10				
11				
12				
1				
2				
3				
小計				
累計	77	959	128.3	97.5
事業計画	−	3,100	−	−
全国累計	−	26,963	−	88.5

※損害金回収を含む。件数は完済分。全国累計は速報値。

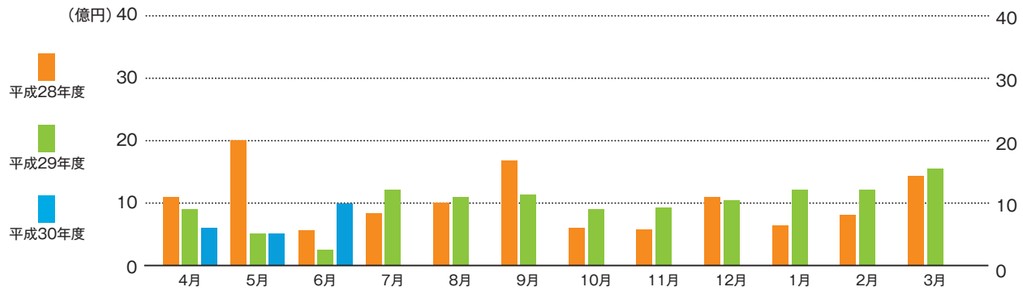
保証承諾



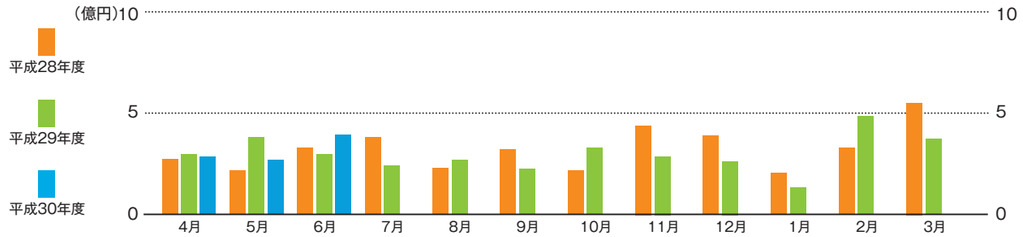
保証債務残高



代位弁済



求償権回収



平成30年度
金融機関店舗
感謝状贈呈式開催

平成30年5月23日、京都ブライトンホテルにおいて、平成30年度金融機関店舗感謝状贈呈式を開催いたしました。

この感謝状贈呈式は、前年度の保証推進等において顕著な実績を上げられ、府内中小企業の金融安定に貢献された金融機関様および金融機関店舗の皆様方に対して行っているものです。

ご　来　賓

京都府商工労働観光部
副部長
近藤 健司 様

京都市産業観光局
局長
上田 誠 様

京都銀行協会
会長
土井 伸宏 様

京都中央信用金庫
理事長
白波瀬 誠 様

京都信用金庫
理事長
増田 寿幸 様

京都北都信用金庫
専務理事
吉田 英都 様

（平成30年5月23日現在の役職を記載しています。）

平成30年度
金融機関店舗感謝状贈呈式ご出席店舗・金融機関

1. 保証債務残高100億円以上の4店舗 (単位:百万円)

	金融機関名	保証債務残高
1	京都信用金庫　本店 様	16,513
2	京都銀行　本店営業部 様	14,321
3	京都銀行　西院支店 様	10,342
4	京都銀行　三条支店 様	10,192

京都信用金庫　本店
営業部課長
井幡 慎二 様

京都銀行　本店営業部
常務取締役
本店営業部長　岩橋 俊郎 様

京都銀行　西院支店
支店長　河原 正樹 様

京都銀行　三条支店
支店長　田中 基義 様

2. 平成29年度 保証債務残高対前年比平均値91.68%以上で平残代位弁済率平均値1.75%以下の保証債務残高上位の36店舗 (単位:百万円)

	金融機関名	保証債務残高
1	京都銀行　福知山支店 様	5,478
2	京都信用金庫　西宇治支店 様	5,462
3	京都信用金庫　壬生支店 様	5,196
4	京都銀行　九条支店 様	5,187
5	京都信用金庫　九条支店 様	5,165
6	京都銀行　久御山町支店 様	4,812
7	京都信用金庫　桂支店 様	4,797
8	京都信用金庫　久御山支店 様	4,553
9	京都銀行　伏見支店 様	4,469
10	京都銀行　宇治支店 様	4,430
11	京都銀行　京都駅前支店 様	4,291
12	京都銀行　府庁前支店 様	4,119
13	京都信用金庫　城陽支店 様	3,826
14	滋賀銀行　宇治支店 様	3,805
15	京都信用金庫　銀閣寺支店 様	3,675
16	京都中央信用金庫　久御山支店 様	3,649
17	京都信用金庫　東山支店 様	3,592
18	京都北都信用金庫　福知山中央支店 様	3,160

	金融機関名	保証債務残高
19	京都信用金庫　西院支店 様	2,967
20	京都信用金庫　園部支店 様	2,958
21	京都中央信用金庫　伏見支店 様	2,912
22	りそな銀行　京都支店 様	2,882
23	京都銀行　七条支店 様	2,824
24	京都中央信用金庫　十条支店 様	2,777
25	京都北都信用金庫　網野支店 様	2,774
26	三井住友銀行　伏見支店 様	2,744
27	京都銀行　大宮支店 様	2,683
28	京都北都信用金庫　峰山中央支店 様	2,680
29	京都中央信用金庫　西小倉支店 様	2,564
30	京都北都信用金庫　舞鶴中央支店 様	2,385
31	京都銀行　長岡支店 様	2,331
32	京都信用金庫　北山支店 様	2,304
33	京都中央信用金庫　上鳥羽支店 様	2,293
34	京都銀行　太秦安井支店 様	2,251
35	京都銀行　八幡中央支店 様	2,244
36	京都銀行　上堀川支店 様	2,227

3. 平成29年度 各支所の保証債務残高対前年比平均値以上で平残代位弁済率平均値以下の保証債務残高1位の4店舗

(単位:百万円)

支所区分	金融機関名	保証債務残高	支所区分	金融機関名	保証債務残高
山城支所	京都信用金庫　西宇治支店 様	4,923	中丹支所	京都北都信用金庫　福知山中央支店 様	3,160
南丹支所	京都信用金庫　園部支店 様	2,847	丹後支所	京都北都信用金庫　網野支店 様	2,746

4. 平成29年度 保証債務残高毎の保証承諾伸長率第1位の3店舗平均値91.68%以上で平残代弁率平均値1.75%以下

(単位:%)

保証債務　残高区分	金融機関名	承諾金額　伸長率
20億円以上　22億円未満	京都中央信用金庫　久御山中央支店 様	147.6
15億円以上　20億円未満	京都中央信用金庫　大宮支店 様	218.0
10億円以上　15億円未満	京都信用金庫　嵯峨支店 様	281.7

5. 政策保証等の推進金融機関8行･庫

(単位:百万円)

	部門	金融機関名	保証承諾
1	特定社債保証	京都銀行　営業本部 様	3,264
2	提携保証	京都銀行　営業本部 様	20,877
3	新規保証	京都銀行　営業本部 様	2,232
4	京都府･京都市中小企業再生支援資金	京都銀行　融資審査部 様	2,319
5	経営改善計画策定支援事業	京都信用金庫　融資部 様	40件
6	創業保証	京都中央信用金庫　営業推進第一部 様	205
7	セーフティネット保証5号	京都中央信用金庫　営業推進第一部 様	5,602
8	保証協会勉強会(保証協会との連携強化)	京都中央信用金庫　営業推進第一部 様	25回

【1、2、3、4、6、7の選考基準】　平成29年度　保証承諾金額　1位の金融機関
【5の選考基準】　平成29年度　同意件数　1位の金融機関
【8の選考基準】　平成29年度　開催回数　1位の金融機関

(平成30年5月23日現在の部署名を記載しています。)

NEW

6. 保証協会との連携による経営支援取組推進の4店舗

金融機関名	経営支援概要
京都銀行　美山支店 様	H29.10 京都バリューアップサポート 事業拡大に伴う財務分析支援
京都信用金庫　西宇治支店 様	H29.7 京都プロアップサポート 経営力向上計画策定支援
京都中央信用金庫　堀川支店 様	H29.7 京都バリューアップサポート 経営改善計画策定及び返済正常化支援
京都北都信用金庫　本店営業部 様	H29.5 京都バリューアップサポート(チャレンジI) 創業計画策定等の創業支援

懇親会にご出席の皆様

挨拶

京都信用金庫
理事長
増田 寿幸 様

乾杯

京都北都信用金庫
専務理事
吉田 英都 様

(平成30年5月23日現在の役職を記載しています。)

感謝状贈呈式の後、ご来賓及びご出席の方々との懇親会を開催いたしました。京都信用金庫理事長の増田寿幸様からあたたかいご挨拶を頂戴した後、京都北都信用金庫専務理事の吉田英都様から力強い乾杯のご発声をいただきました。

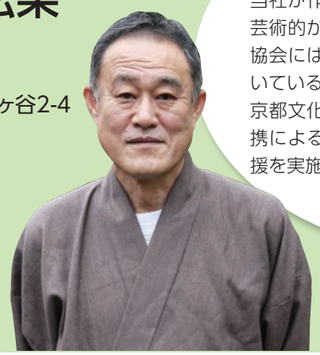
今後とも金融機関様や行政機関様と一緒になって京都の中小企業を支えていきたいと考えておりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

未来へ歩む 京の企業

有限会社松楽は、創業が1905年と業歴長く、主に楽焼の製造販売を行っています。今回、同社社長の佐々木大和（やまと）様に、同社が製造する楽焼や今後の展望について伺いました。

有限会社 松楽

代表者／佐々木 大和
住所／京都府亀岡市東別院町神原堂ヶ谷2-4
従業員数／ 7名
事業内容／楽焼の製造及び販売
創業／明治38年（1905年）8月
設立／昭和41年（1966年）10月
URL ／ http://shouraku.jp/



代表取締役
佐々木 大和 様

保証協会へメッセージ

当社は、茶道具を製作する「ものづくり業」です。当社が作り出す「もの」は、古来から続く京都の芸術的かつ文化的な価値をもつ側面があり、保証協会にはそのことを十分理解のうえで支援いただいていることに大変感謝しております。引き続き、京都文化の振興の為にも、行政や支援機関との連携による中小企業に寄り添った金融支援・経営支援を実施していただければと思います。

千利休の心を伝える楽焼

はじめに佐々木社長より、同社の事業についてお話を伺いました。

伯父さん（上）と息子さん

「1944年に東山・清水寺門前から京都・亀岡の地へ移窯しました。現在、伯父2人と、息子2人が一緒に働いてくれており、それぞれが持ち場を担当しています。」

次に同社が製造する『楽焼（らくやき）』についてもお話を伺いました。

「楽焼は16世紀後半、茶道のためという究極の目的をもって生まれました。昔は手作業も多く少量しか生産できず高価なものでしたが、戦後の茶道教育の普及によって御稽古用茶碗のニーズが一挙に高まりました。そこで、良い品をできる限り多く生産すべく当社が新たなガス窯を開発し、その普及に一役買いました。」

楽焼には千利休の精神「わび・さび」が込められていると伺いました。

「一般的な焼き物は機能性が高く、様々な用途に使われています。その一方、楽焼は短時間で表面のみを焼き上げることで熱を伝えにくくしており、保温性に優れ茶道具に向いていますが、その分耐久性に乏しく、本来はそれ以外の使い道がありません。しかし私は、茶道をされる方以外にも千利休の心を伝えるべく、茶碗以外のもの、たとえば楽焼の素材を使った陶板などを製作することで多くの方に楽焼を知ってもらえるよう挑戦を続けています。」

インタビュー当日には、手とヘラだけで茶碗を形成される様子や、窯入れを行う様子を見学しながらそれぞれの作業を説明していただきました。真摯に作業に没頭される姿はまさに職人肌という言葉が相応しいと感じました。

「経年の美」の良さ

次に同社内にある数寄屋造りの茶室へ移動し、引き続きお話を伺いました。

「この茶室の庭は、年を重ねるにつれて美しくなるように設計されています。当社も、モノが完成した時でなく「経年」したのちに生まれる良さを見据えた仕事をしたいと考えています。」

最近は日本人だけでなく、外国からの来訪者が多いと伺いました。

「茶碗に限らずモノを作れば売れる時代は終わり、世の中にはモノと情報が溢れ、人の嗜好も多様化しています。茶道人口が減り、茶道具全体の市場も縮小しました。しかし、最近では外国人でも純粋に日本文化、特に禅精神文化に興味を持ち、それを通じて茶道を嗜む方が増えています」。

今はインバウンド隆盛期ですが、一組限定で作陶・茶道体験を開かれていると聞きます。

「『一客一亭』（一期一会のさらに上を行く、おもてなしの思想）のもと、ただ日本のモノだと珍重されるのではなく、歴史背景を含んだストーリーや空間までも体験・理解して欲しいという思いで当社はおもてなしをしています。言語の問題はありますが、人間の心は人種や国を超えて通じ合うものです。ここに来訪される方々もただ写真だけをSNSに載せるのではなく、その場で感じたことなどのメッセージも載せてくれています。正直、受け入れるコストは割に合わないかもしれませんが、継続することで、楽しさ・文化が広く伝播していけば、そこに新たなマーケットが生まれるのではないかと思っています。」

最後に今後の展望について伺いました。

「楽焼を様々な分野に展開していきたいですが、例がないことばかりで新しく開拓していく難しさを感じています。これからは先代までの技術の伝承だけでは商売を続けられません。楽焼に込められた思いを残しつつ新しい分野に展開していくことが、当社が抱えている命題であり、私の夢でもあります。一人でも多くの方に知ってもらい、ファンを増やしたい。日本に限らず、世界各国、それも、語らなくとも作品や催しを通じて作家の意図を伝えられるようにしたいと思っています。」

この地を訪れ、そして佐々木社長の話を通して、本当の豊かさとは何かを知ることができました。日々の喧騒の中で生活していると、利益や利便性の向上を追い求める風潮に飲み込まれがちです。同社の作品に触れることで、「千利休の心」を多くの方に肌で感じていただけたらと思いました。

京都北都信用金庫
弥栄支店

京丹後市弥栄町溝谷 5443-1

支店の沿革

- 昭和25年　9月　丹後織物信用組合 弥栄支店　開設（平成８年合併により弥栄西支店）
- 　　27年 11月　丹後中央信用金庫 弥栄支店　開設
- 平成 6年　4月　丹後中央信用金庫 弥栄支店を現在地に新築移転
- 　　8年　1月　合併により、京都北都信用金庫となる
- 　　9年　2月　弥栄西支店を統合し、現在に至る

保証協会へメッセージ

日ごろから、地域中小企業の悩みや、当庫からの相談に対して、親身に相談に乗っていただいており、大変感謝しています。私たち金融機関は保証協会の協力なくして、地域内の中小企業に円滑な金融支援を行うことはできません。これからも地域発展のために協力いただきますようお願いいたします。

●支店管内の産業の特色及び中小企業金融の取組などについて

旧弥栄町時代は、国道も鉄道もない「ないないサミット」の提唱自治体として、何もないことを逆手にとった町づくりで注目を浴びました。現在は医療・保健・介護福祉等の施設が充実し、市内最大規模の福祉の町となっています。産業は農業と織物業の時代が長く、現在は織物業の多くは工業系製造業へ転換されています。全ての事業者の良き相談相手となり、地域の活性化や発展に向けた取組みを念頭に活動しています。

※観光名所としては、スキー場・キャンプ場を備えた森林公園「スイス村」、国内最大面積の道の駅「丹後王国」、戦国時代に細川ガラシャが幽閉された味土野(みどの)地区などがあります。

●これまでで一番心に残る体験

営業係として配属された入庫間もない頃、担当していたお客さまを訪問すると、他の金融機関が当庫融資の肩代わりを提案していましたが、そのお客様は当庫との付き合いを非常に大切にされており、その提案を断られました。「今まで良いときも悪いときでも親身になって相談に乗ってくれて、本当に力になってくれたのは北都信金だ。」この言葉が、今も私が仕事を続けられている原動力になっています。

●保証協会との連携について

お客様を訪問していると、事業性融資を受けたことがない小規模零細先が少なくないことに気づきます。そのような先に保証利用提案を行うことで、取引先の増加に努めています。また、融資取引のあるお客様に対しては、日々の訪問活動により、資金需要に応じた提案を繰り返しています。今後、保証利用の推進だけでなく、充実した経営支援メニューも有効に活用していきたいと思っています。

●職員の方々へのアドバイス

全ての仕事の基本理念は「幸せのために」だと思っています。非金融サービスが求められる今の時代は、昔で言う「頭のいい」ことばかりが求められる時代ではありません。やさしさ、思いやり、親切心、安心感、満足感、楽しさなど、私たちが今すぐにでも提供できることはたくさんあります。

支店長のモットー

「運命を変えるのは、大きな努力でなく、小さな習慣である」

人の先天的な才能には、それほど大きな違いはありません。
違うのは日常の小さな習慣であり、小さな習慣が寄り集まって人はできているのです。
習慣は才能を逆転します。習慣は努力ではありません。
何気なしに行っている簡単なことで、未来は変わっていくのです。

支店長　田﨑 仁志 様
（平成 30 年 7 月 1 日付で網野支店 支店長に就任）

支店のスローガン

「仕事は厳しく、職場は楽しく」

お客さまは私たちに単なる論評を求めてはいません。真剣に相談できる「関係」を求められており、その期待に応えられるように自分をしっかり磨くことが大切です。自分を磨き続けるためには、「職場は楽しく」なければならず、「仕事をおもしろくやろう！」と思える環境を作ることが重要だと思っています。

お茶の京都

お茶の京都特集第５回目は、京田辺市、八幡市です。府南西部に位置する両市は、日本遺産や京都府景観資産に認定された茶園景観をはじめ、伝統的なお茶の歴史や文化を有する地域です。一般社団法人京都山城地域振興社様のご協力のもと、両市のお茶の京都を体験させていただきました。

酬恩庵（しゅうおんあん） ～室町文化の集結地～

初めに紹介するのは、京田辺市にある酬恩庵一休寺です。とんちの一休さんでも知られる一休禅師が、荒廃していた当寺を復興させたとされており、一休禅師の人物像や歴史背景、茶文化を感じることができます。住職の田邊宗一様にお話を伺いました。

「当寺は、鎌倉時代に大応国師が『妙勝寺』として創建しました。その後、数々の戦で廃れた当寺を、一休が師恩に報いるという意味を込めて『酬恩庵』に改名し、復興させました。それ以降、この庵が一休の活動拠点となり、多くの人が一休を慕って訪れ、禅の修行を受けたと言われています。侘茶（わび）道の祖と言われる村田珠光も、一休を慕って当寺を訪れていたそうです。一休の下で修業を受けた珠光は、武野紹鷗（たけのじょうおう）や千利休らに教えを広め、日本の茶文化を形成する礎を築いた人物の一人です。このように、一休は当時の茶文化に大きな影響を与えているほか、能楽や書道等、室町時代の多くの文化人が一休の下に訪れることで、当寺はいわば室町時代の文化サロンとしての役割を果たしていました。京都府指定文化財に指定されている、一休が住んでいた茶室『虎丘庵（こきゅうあん）』をはじめ、当寺でしか見られない一休の軸物等を保管している宝物殿、江戸時代初期に造庭された方丈庭園（名勝指定）など、様々な文化財を保管しています。ぜひ一度足を運んでいただき、実際の一休がどんな人物だったのかを感じていただければと思います。」

総門

方丈南庭

酬恩庵一休寺
住職
田邊 宗一 様

松花堂庭園・美術館 ～美しい庭園と茶室～

次に紹介するのは、優れた芸術文化が生まれた江戸時代初期に『寛永の三筆』の一人として活躍した松花堂昭乗（しょうじょう）ゆかりの松花堂庭園です。八幡市にある同園では、松花堂昭乗が晩年を過ごした草庵『松花堂』が風景も含めて忠実に再現されており、『松花堂』は史跡・名勝にも指定されています。館長の石橋和正様に園内をご案内いただきました。

八幡市の名産品である竹に囲まれた外園を進むと、松竹梅3つの茶室が現れます。

「それぞれ異なる年代の茶室を再現していますが、それまでの絢爛豪華な茶室から一転し、年代が進むほどに自然を取り込み、果ては庭までも含めて茶室を表現するようになりました。例えば、節を残したままの木や竹を建材として使用するなど、あえて質素にみせようとするひと工夫が至るところになされています。お茶だけでなく、茶室自体も当時は楽しまれていたようです。」

続いて内園を進むと、『松花堂』が現れます。

「当初は石清水八幡宮にありましたが、廃仏毀釈の影響で現在の場所に移築されました。ここでは江戸時代当時の風景や雰囲気を楽しむことができます。」

松竹梅の茶室は個人で利用することも可能で、毎年秋には大規模なお茶会も開催されます。また、松花堂庭園には、美術館が併設されており、松花堂昭乗にまつわる展示や、その他展覧会が開催されています。そして、敷地内の店舗では「松花堂弁当」をご賞味いただけます。ぜひ足を運んでいただき、美術品とともに発祥地ならではの味も楽しまれてはいかがでしょうか。

【平成30年6月18日の大阪北部地震の影響により、当面の間、休園されることになりました（美術館は通常通り営業）。再開時期については松花堂庭園様にご確認下さい。一日も早い復興をお祈りいたします。】

草庵『松花堂』

茶室（松隠）

松花堂庭園・美術館
館長
石橋 和正 様

京田辺市からのメッセージ

日本遺産である「日本茶800年の歴史散歩」の一部に指定され、伝統的な茶生産の土地利用を今に残している「飯岡（いのおか）」を有する本市は、高級茶・玉露の日本有数の産地であり、全国茶品評会の「農林水産大臣賞」や「産地賞」を幾度となく受賞しており、市内の店舗では良質なお茶をご購入頂けます。

さらに「京都やましろ茶いくるライン」の整備や、ツアー・オブ・ジャパン京都ステージを開催するなどサイクリング観光も盛んなまちです。

ぜひ、京田辺市にお越しください。

飯岡の風景

ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ

八幡市からのメッセージ

八幡市は、京都府の南西部に位置し、木津川・宇治川・桂川が合流して淀川になる淀川三川合流域です。

国宝・石清水八幡宮をはじめ、流れ橋、背割堤（せわりてい）、松花堂庭園・美術館、飛行神社（ひこうじんじゃ）など、豊かな自然や歴史ある社寺が数多く存在し、様々な文化や歴史に出会い、触れることができるまちです。

このたび、八幡市の魅力を紹介するウェブコンテンツ「八幡ストーリー」を制作しました。右のQRコードから、ぜひご覧ください。

石清水八幡宮

飛行神社

お茶の京都 Discover Premium Green

一般社団法人京都山城地域振興社（通称：お茶の京都DMO）では、着地型旅行商品や特産品などの開発・販売促進を通じ、お茶の京都エリアの観光地域づくりを進め、交流人口の拡大と宇治茶をはじめとする地域資源ブランドの振興を図っています。

webサイト:http://ochanokyoto.jp/　もうひとつの京都「お茶の京都」へ　検索

お知らせ

「みんなの力で暴力・違法銃器追放」京都府民大会にて表彰されました

平成30年6月8日(金)、ロームシアター京都において第87回民事介入暴力対策京都大会、平成30年「みんなの力で暴力・違法銃器追放」京都府民大会 が開催されました。

当協会は、平成10年に全国信用保証協会連合会が定めた倫理憲章に基づき、長年にわたり京都府暴力追放運動推進センターと連携を密にして、保証審査等における反社会的勢力等の介入の徹底排除に組織を挙げて取り組んできたところ、平成29年11月に暴力追放功労団体表彰（全国表彰）を受賞し、本大会において改めて表彰されました。

今後も組織一丸となって、暴力追放運動の推進に努めてまいります。

京都再生ネットワーク会議開催

平成30年6月15日(金)、京都府中小企業会館において、通算30回目となる京都再生ネットワーク会議を開催しました。

第一部では、当協会から平成29年度再生支援資金の保証取組実績やモニタリング・フォローアップ実績の報告を行いました。次に、京都府中小企業再生支援協議会 統括責任者の中西宏介様から再生支援協議会の活動と最近の動向について報告がありました。

第二部では、株式会社日本経営 ヘルスケア事業部課長の福田暁子様を講師にお招きし、「診療報酬改定を踏まえた今後の病院経営」というテーマでご講演いただきました。直近の政策動向を踏まえた将来の医療・介護の方向性についてご説明いただいたうえで、平成30年度診療報酬改定について、わかりやすくご解説いただきました。今後病院経営に求められる方向性・戦略について貴重なお話を伺うことができました。

会議終了後の懇親会では、講師の福田様も参加され、出席者同士の交流を図るとともに、「オール京都」での再生支援に向け、更に連携を深めることができました。

<中小企業再生支援資金の実績>
1. 平成29年度中小企業再生支援協議会の再生計画完了案件保証承諾実績 ・・・・・・・・ 4企業
（平成15年以来の累計325企業） ※平成29年9月末時点
2. 平成29年度京都府・京都市協調中小企業再生支援資金実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・30企業
（制度創設累計832企業） ※平成30年3月末時点

日本財務管理学会に講師を派遣しました

平成30年6月2日（土）に開催された日本財務管理学会第46回春季全国大会に、上原常務理事が講師として参加しました。本大会の実行委員長が包括連携協定※を締結している京都産業大学の中井副学長であったことが縁で、当協会に講演依頼があったものです。

講演は「中小企業金融における信用保証協会の役割」をテーマに、中小企業のライフステージに応じた当協会の金融支援・経営支援の取組み内容や、京都経営サポート保証・中小企業再生支援資金の活用事例を紹介しました。

当協会は今後も様々な関係機関との連携強化を行ってまいります。

※平成30年3月5日に京都府立大学、京都産業大学、龍谷大学と地域の活性化や産学公連携の推進に関し、包括連携協定を締結しました。

平成30年度 新入職員紹介

今年度は2名の新入職員を迎えました。
今後は、皆様とお会いする機会も増えると思いますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

≪質問事項≫ ①私のモットー ②学生時代に熱中したこと ③今、一番興味のあること ④今後の抱負

企業支援部 保証審査課
藤川 聖子(ふじかわ せいこ)

①機会を逃さないということです。きっかけは学生時代のドイツ留学であり、それ以降、『初めの一歩を踏み出す勇気さえあれば何とかなる』と思えるようになりました。

②旅行、留学、アルバイト、音楽（ピアノ・１万人の第九出演）など様々なことにチャレンジしました。特にピアノは５歳から始めましたが、大学時代に猛練習を重ね、１日６時間没頭する日もありました。

③山登りです。季節を五感で楽しむのが好きで、特に山は絶好の場所だと思います。現在山仲間は母と大学の友人のみなので、一緒にゆっくり歩いていただける方を募集中です。

④周囲への感謝の気持と言葉を大切に、「昨日よりも今日、今日よりも明日」という思いで京都の中小企業発展のために日々邁進していきたいです。

管理部 管理第二課
藤村 翔太(ふじむら しょうた)

①何事にも真摯に取り組むことです。分からないことに対しても向き合い、良い経験に変えられるよう心掛けています。

②野球です。学生時代は軟式野球部に所属していました。チームメートにも恵まれ、野球の楽しさを感じながら活動していました。

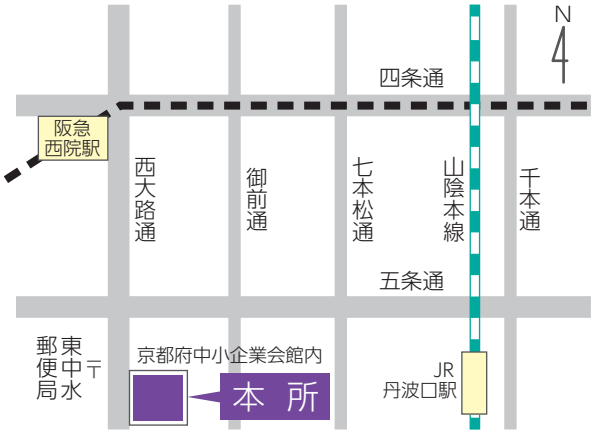
③京都の寺院巡りです。それぞれの寺院が持つ独特な雰囲気や景色を味わいたいと思っています。

④分からないことにも逃げずに取り組み、自分の力に変え、お客様の力となれるよう努力します。

本　所

〒615-0042 京都市右京区西院東中水町17番地 京都府中小企業会館内
●業務区域／京都市、向日市、長岡京市、乙訓郡

	●電　話	●FAX
保証業務課	(075) 314-7221	(075) 314-2034
企業発展推進課	(075) 314-7226	(075) 321-6117
保証審査課	(075) 314-7227	(075) 314-8111
創業・経営相談課	(075) 314-7221	(075) 321-6117
経営支援課 期中支援課	(075) 314-7222	(075) 321-3043
管理第一課 管理第二課 管理業務課	(075) 314-7225	(075) 322-1038
コンプライアンス室 総務課 経理課	(075) 314-7223	(075) 321-6331
人事課	(075) 314-7965	(075) 321-6331
電算統計課	(075) 314-7224	(075) 314-3545
監査室	(075) 314-7223	(075) 321-6331



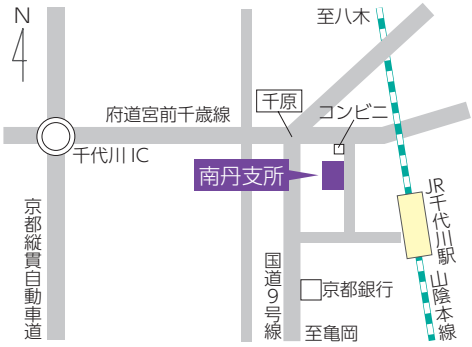
専用相談窓口

●電　話

事業承継サポートデスク	(075) 314-7229
海外展開サポートデスク	(075) 321-7228

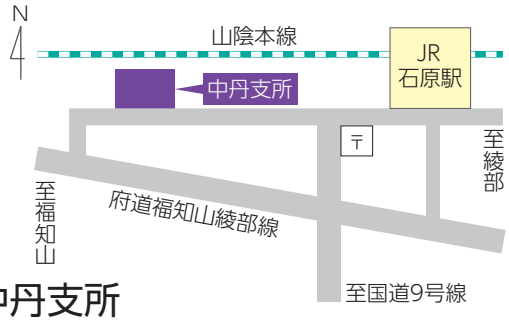
山城支所

〒611-0033 宇治市大久保町上ノ山37番地の3
●業務区域／宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、相楽郡、綴喜郡、久世郡
●電 話／　●FAX ／
保証関係：(0774) 43-8822　保証関係：(0774) 43-8899
管理関係：(0774) 43-8823　管理関係：(0774) 43-8824



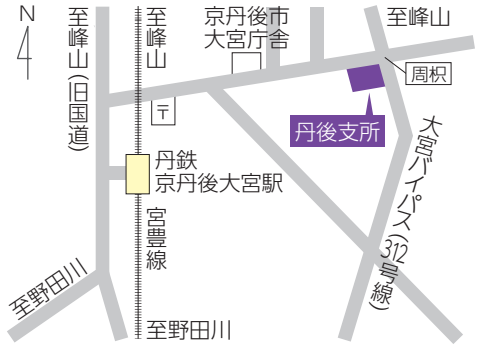
南丹支所

〒621-0052 亀岡市千代川町千原2丁目6番11号
●業務区域／亀岡市、南丹市、船井郡
●電 話／(0771) 22-1041　●FAX ／(0771) 22-6737



中丹支所

〒620-0804 福知山市石原(いさ)2丁目24番地
●業務区域／福知山市、綾部市、舞鶴市
●電 話／(0773) 27-6156　●FAX ／(0773) 27-6158



丹後支所

〒629-2503 京丹後市大宮町周枳(すき)2226番地3
●業務区域／宮津市、京丹後市、与謝郡
●電 話／(0772) 68-0601　●FAX ／(0772) 68-0613

あなたの企業の一員に
京都信用保証協会
CREDIT GUARANTEE CORPORATION OF KYOTO
http://www.kyosinpo.or.jp/
VEGETABLE OIL INK
●インキ：大豆油インキを含む植物油インキ

表紙の写真／上津屋橋(こうづやばし)(流れ橋)

木津川に架かる長さ356.5mの日本最長級の木橋。「流れ橋」の名は、増水時の抵抗を少なくするため、橋板が流れるように設計されていることに由来する。昭和28年の架設以来、昔ながらののどかな風景を残していることから、日本遺産「日本茶800年の歴史散歩」の一部にもなっており、映画の撮影地としても利用されている。